

# みなとまちゾーン活性化基本計画

令和4年3月

下 田 市

## 目次

### 第1章 計画の位置付け

1-1	計画策定の趣旨	1
1-2	総合計画の位置付け	1
1-3	計画策定の経過	3
1-4	事業の推進手法について	4
1-5	計画の構成	5

### 第2章 現状の整理

2-1	みなとまちゾーンの魅力	7
2-2	みなとまちゾーンの現状と課題	9

### 第3章 みなとまちゾーンの目指す姿及び実現するための取組の視点

3-1	みなとまちゾーンの目指す姿（将来像）	13
3-2	目指す姿（将来像）の実現に向けた取組の視点	14

### 第4章 みなとまちゾーンの「場の力」

4-1	マリパークエリア	16
4-2	歴史・みなとまちエリア	18

### 第5章 事業計画

5-1	重点的な取組	20
5-2	「場」の取組と将来イメージ案	22
5-3	ロードマップ（全体計画）	38

おわりに ~次のステップに向けて~

## **第1章 計画の位置付け**

### **1-1 計画策定の趣旨**

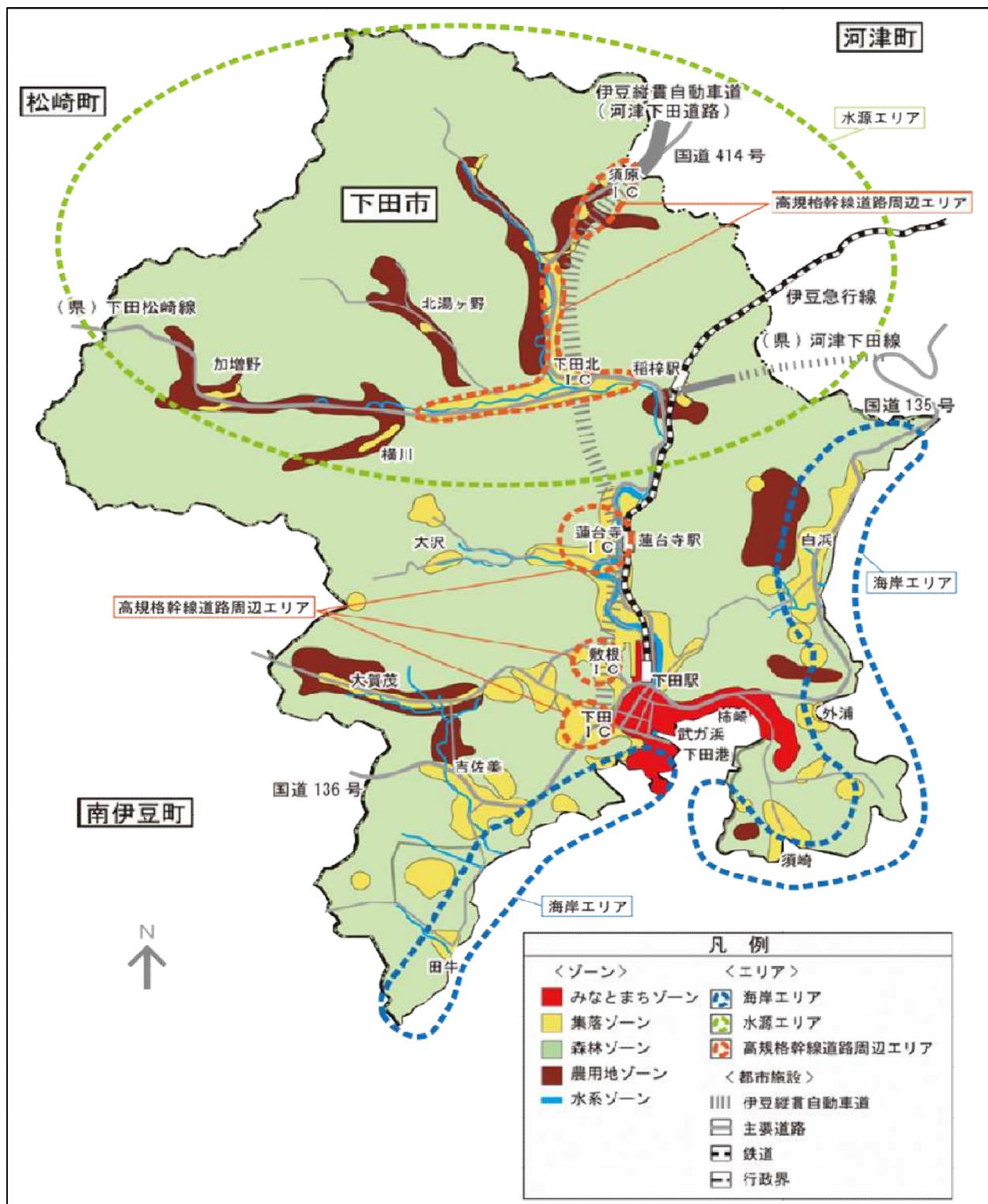
本市は、下田港という天然の良港を有し、古くから東西交流の要所として港を中心に栄えてきた歴史を持ち、海の魅力と開国の舞台にもなった歴史情緒のあるまちなみを観光資源とするまちである。

しかしながら、少子高齢化や人口減少等の社会環境の変化に伴い、本市を取り巻く環境も厳しさを増しており、この状況を打破していくため、本市の中心的拠点として位置付けられている「みなとまちゾーン」の魅力を高め、多くの市民と来訪者が集い、行き交う、憩いとにぎわいの場を創出にすることにより、市内経済の回復とまちの活性化を図っていくことを目的として、「みなとまちゾーン活性化基本計画（以下、本計画という。）」を策定する。

### **1-2 総合計画の位置付け**

下田市総合計画の基本構想(土地利用構想)において、「みなとまちゾーン」は、下田港と中心市街地一帯について、観光や交流など市民生活の中心的拠点として、生活・経済機能の充実のための社会基盤の整備と、避難路の整備等による防災対策を講じ、自然や歴史・文化資源の活用とまちなみ景観に配慮した整備を推進するゾーンとして位置付けている。

みなとまちゾーン（第5次下田市総合計画より抜粋）



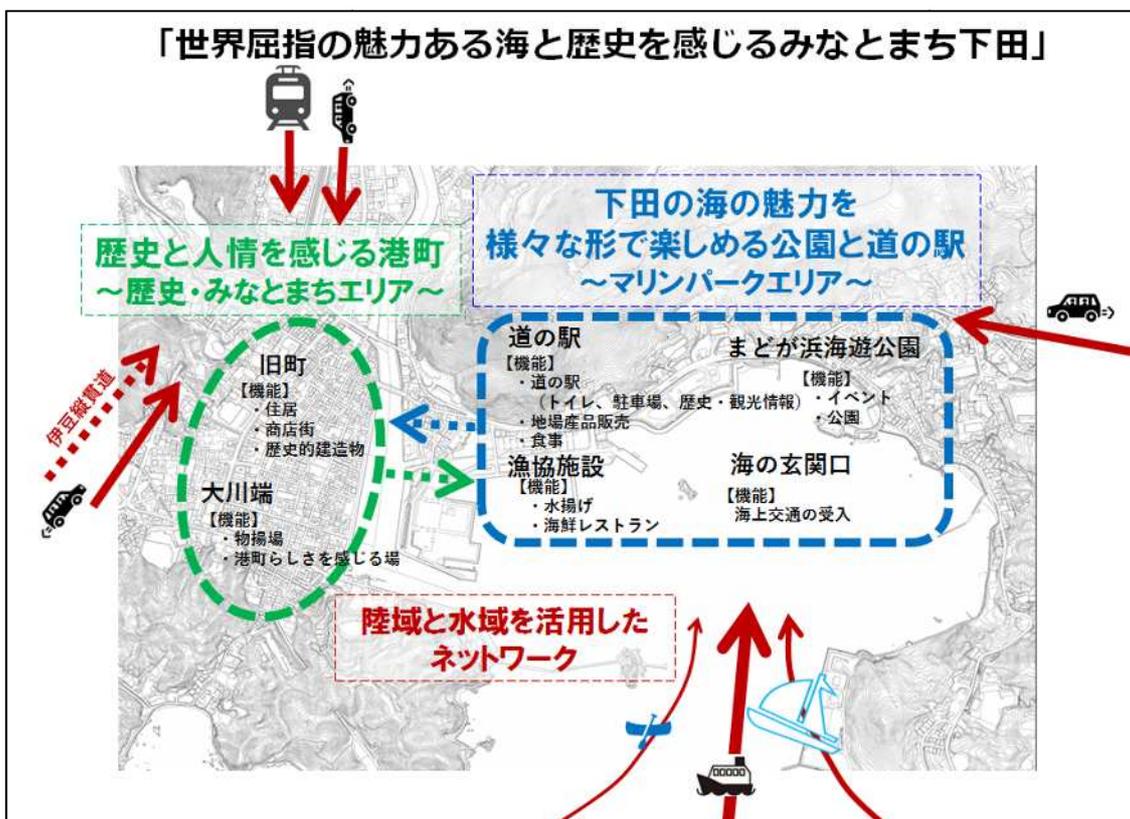
### 1-3 計画策定の経過

本計画の策定にあたり、県、市、関係機関、関係団体の参画による「みなとまちゾーン活性化協議会（以下、「協議会」という。）」を設置し、まどが浜海遊公園及び道の駅開国下田みなとの有効な利活用と旧町への人の流れの創出を主題として協議を行ってきた。

平成30年度には、基本的な方向性をまとめた「みなとまちゾーンランドデザイン（以下「ランドデザイン」という。）」を策定した。

このランドデザインでは、「世界屈指の魅力ある海と歴史を感じるみなとまち下田」を理念として、「マリパークエリア」と「歴史・みなとまちエリア」の2つのエリアを定め、各エリアの持つそれぞれの魅力を創出するとともに、「陸域と水域を活用したネットワーク」の構築による両エリアの回遊性向上を図ることとした。

#### みなとまちゾーン グランドデザイン



#### 1 - 4 事業の推進手法について

みなとまちゾーンの魅力を活かし、ランドデザインに掲げた理念を実現していくためには、個々の事業主体がそれぞれの考えのもとに個別に事業を実施していくのではなく、みなとまちゾーン全体を一体的に捉え、行政、市民、市内事業者、民間企業等の多様な主体が、理念や目指す将来像を共有して魅力の向上に取り組む「エリアマネジメント」の考え方が不可欠である。

そのため、本計画では、関係者が共有できるみなとまちゾーンの目指す将来像を定め、エリアマネジメントによる将来像の実現に向けた取組の視点、各エリアの整備方針や整備にあたって留意すべき事項、各主体が担う事業や連携した戦略的な取組を提示するものとする。

「エリアマネジメント」とは、特定のエリアを単位に、民間が主体となって、まちづくりや地域経営（マネジメント）を積極的に行おうという取組

出典：内閣官房 日本版 BID を含むエリアマネジメントの推進方策検討会  
(2016)

## 1 - 5 計画の構成

本計画は、「第1章：計画の位置付け」から「第5章：事業計画」をもって構成する。

第2章では、みなとまちゾーンの持つ魅力や現状と課題について整理し、第3章で目指す姿（将来像）と実現に向けた取組の視点を定める。

第4章では、各エリアでの事業方針（エリアの目的）を示すとともに、魅力を活かして重点的に取り組む地区を「場」として設定し、それぞれの「場」に求められる役割を定める。

第5章では、みなとまちゾーンの活性化に向けた重点的な取組と、それぞれの「場」が個々に持つ魅力や可能性を活かし、高めるための配置や整備の考え方、実施にあたって留意すべき事項を整理し、「場」のイメージ案と取組を進めていくためのロードマップを示す。

### 計画の構成（各章の概要）

#### 第1章 計画の位置付け

みなとまちゾーンの位置付け、エリアマネジメントと計画の必要性

#### 第2章 現状の整理

みなとまちゾーンの持つ魅力、ゾーン全般及び各エリアにおける現状と課題の整理

#### 第3章 みなとまちゾーンの目指す姿と実現に向けた取組の視点

みなとまちゾーンの目指す姿（将来像）と事業の指針（取組の視点）の整理

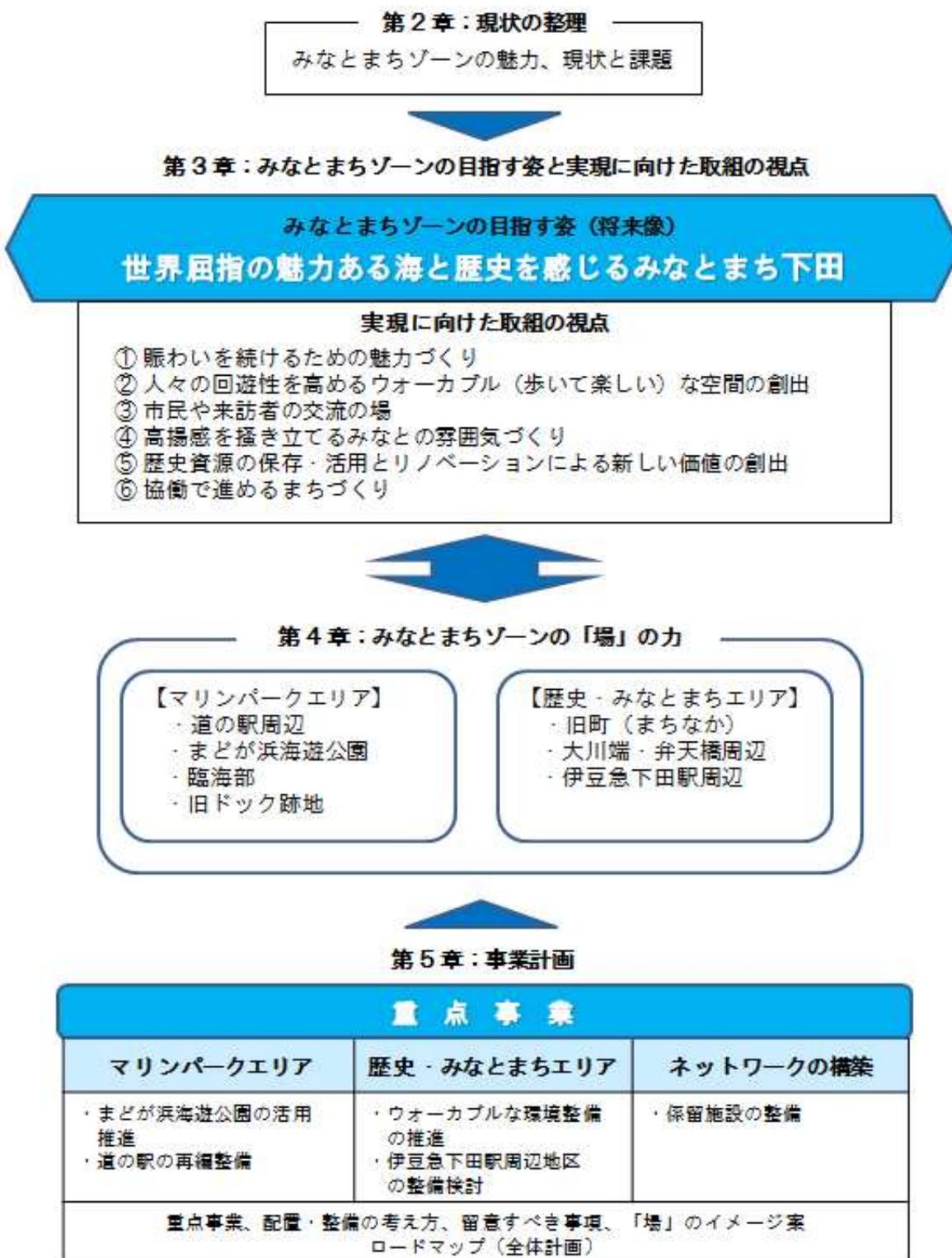
#### 第4章 みなとまちゾーンの「場の力」

各エリアの事業方針、重点的に取り組む「場」の設定と求められる役割

#### 第5章 事業計画

重点事業、それぞれの「場」における配置・整備の考え方、留意すべき事項、「場」のイメージ案、ロードマップ（全体計画）

## 計画の体系



## 第2章 現状の整理

みなとまちゾーンの活性化を検討していくにあたり、現在のみなとまちゾーンの現状を整理する。

### 2-1 みなとまちゾーンの魅力

みなとまちゾーンは、以下に示すような多くの魅力を有している。

これらの魅力は、みなとまちゾーンの活性化に向けて最大限に活かされるべきである。

#### 【地理】

- ・ 首都圏から電車で約2時間半のアクセス
- ・ 伊豆急下田駅から徒歩10分程度で移動できる立地
- ・ 半島南端の終着駅ならではの旅情感と降り立った時に感じる南国の空気



#### 【景観】

- ・ 海と山に囲まれ、起伏に富んだ海岸線やジオサイトなどの固有の景観
- ・ 高層の建築物が少なく、どこからでも見渡せる自然景観
- ・ 開国の舞台となった史跡、なまこ壁や伊豆石の外壁等の歴史を感じる建造物と、江戸時代の町割りを残す矢折れの街路網といったレトロで文化的なまちなみ



## 【歴史・文化】

- ・ 幕末開国の舞台となった歴史から続く国際交流の風土
- ・ 「下田太鼓祭」など、歴史や地域に根付き継承されている伝統行事
- ・ 温暖な気候と交流のまちとして栄えた文化的背景に育まれた寛容な人柄



## 【観光】

- ・ 観光地、温泉地としての全国的な知名度
- ・ コンパクトにまとまったエリアに数多く点在する観光スポット
- ・ 年間を通じた多様な祭事やイベント
- ・ 観光振興を主体とした、民間、国際、行政などの様々な交流



## 【食】

- ・ 水揚げ量日本一を誇る金目鯛
- ・ 海の幸、山の幸を生かした地域料理



## 2-2 みなとまちゾーンの現状と課題

みなとまちゾーンの活性化を図るためには、魅力の向上とともに抱えている課題の解決が必要であり、みなとまちゾーンの現状と課題を以下に示す。

### 全般

#### 【現状】

海と山に囲まれ、変化に富んだ海岸線、海に突き出した岬や岩の小島など下田固有の自然景観と、江戸時代に御番所が置かれ、東西交流の要所として港を中心に栄えてきた歴史情緒あるまちなみを有しているが、津波や大雨による浸水が懸念されているほか、稲生沢川河口部に無秩序に係留された船舶や沈廃船により景観が阻害されている。

#### 【課題】

- ・ 歴史あるみなとまちを感じられる景観やまちなみの形成
- ・ 地震、津波、洪水等の想定される自然災害への対策
- ・ 景観を阻害する無秩序に係留された船舶や沈廃船の処理・対応



## マリパークエリア

### 【現状】

まどが浜海遊公園や道の駅開国下田みなと等の施設のほか、松陰の小径やハリスの小径といった下田港を眺めながら散策できる遊歩道も整備されており、海の魅力を楽しめる空間となっている。

この環境をさらに活かすために、道の駅の魅力化やまどが浜海遊公園の活用促進、下田魚市場等の民間企業との連携によりにぎわいを創出し、陸と海の玄関口としての機能強化が求められる。

### 【課題】

- ・ 道の駅の再編整備
- ・ まどが浜海遊公園の有効活用
- ・ 老朽化が進んでいる漁協施設の再整備
- ・ 民間企業との連携
- ・ まちの玄関口としての集客力の強化と市内各所への誘導を促す情報発信



## 歴史・みなとまちエリア

### 【現状】

旧町は、江戸時代に東西交流の要所として栄え、開国の舞台となった歴史の名残が残されたまちなみが形成され、みなとまちの雰囲気を感じさせる大川端、ノスタルジックな景観が人気のペリーロードといった魅力あるスポットのほか、弁天橋周辺にはポケットパーク等も整備されているが、駅からまちなかへの誘導と点在するスポットを歩いて周りたくなる仕組みづくりが必要である。

また、経済の停滞による空き家や空き店舗の増加等により、中心市街地の活力が失われつつあり、更なる魅力の向上を図るためには、住民や来訪者が集い、くつろげる場所を創出するとともに、歩車共存の道路環境を整備し、まちなかで過ごしたくなる空間を増やしていくことが必要である。

### 【課題】

- ・ 史跡や歴史的建造物の維持・保全・活用
- ・ 空き家、空き店舗の増加と商業機能の衰退
- ・ 来訪者の誘導と周遊を促す魅力の発信と環境整備



## 陸域と水域を活用したネットワーク

### 【現状】

本市での主な移動手段は、住民、来遊客ともに自動車であるため、繁忙期には駐車場が不足するほか、中島橋交差点に幹線道路が集中することから、駅周辺での渋滞が発生しやすい状況となっている。現在進められている伊豆縦貫自動車道の整備に伴い、自家用車や大型バスでの来訪の増加が予想されることから、道路環境や駐車場の再編の検討と併せて、水域からの来訪促進や公共交通の利便性の向上等が求められる。

また、マリパークエリアと歴史・みなとまちエリアは、稲生沢川を挟んで距離感があり、現状では両エリアを結ぶ導線が下田橋とみなと橋のみであることから、水域を活用した新たな移動手段の検討など、両エリアをつなぐネットワークの構築が必要である。

### 【課題】

- ・ 陸と海が一体となった交通体系の構築
- ・ 観光交流に対応した移動手段や動線の整備
- ・ 移動の距離感を感じさせないエリアの連動性
- ・ 駅前周辺の交通渋滞



### 第3章 みなとまちゾーンの目指す姿と実現に向けた取組の視点

市民や市内事業者、民間企業等の多様な主体が参画し、エリアマネジメントによるみなとまちゾーンの活性化に取り組むため、みなとまちゾーンが目指す姿（将来像）と、その実現に向けた事業の指針を示す。

#### 3-1 みなとまちゾーンの目指す姿（将来像）

みなとまちゾーンの基本的な方向性をまとめたランドデザインの理念である「世界屈指の魅力ある海と歴史を感じるみなとまち下田」を、各主体が共有するみなとまちゾーンの目指す姿（将来像）とする。

#### みなとまちゾーンの目指す姿（将来像）

**世界屈指の魅力ある海と  
歴史を感じるみなとまち下田**



### 3-2 目指す姿（将来像）の実現に向けた取組の視点

みなとまちゾーンの目指す姿（将来像）の実現に向けて事業の指針となる取組の視点を定める。

#### にぎわいを続けるための魅力づくり

みなとまちゾーン内の施設や空間が持つ特色や役割を整理し、機能の強化や施設の整備を行うとともに、イベントの実施などによる人が集う仕組みを充実させることで、市民や来訪者を惹きつける魅力を創る。

#### 人々の回遊性を高めるウォーカブル（歩いて楽しい）な空間の創出

歩行者や自転車が移動しやすい道路環境、遊びや休憩ができるスペース、利用しやすい公共交通、誘導を促すサインや情報の提示等により、「ウォーカブル（歩いて楽しい）」な空間を創出し、回遊性を高めることで、来訪機会と滞留時間の増加の相乗効果を生み出す。

#### 市民や来訪者の交流の場の整備

市民や来訪者のニーズを把握し、「来たくなる」「居たくなる」場を整備して利用者の交流の場を作ることで、リピーターを生む効果が期待できるとともに、利用の増加から新たなニーズを把握し、更なる魅力化に取り組む。

#### 高揚感を掻き立てるみなとの雰囲気づくり

みなとまちゾーンの魅力である海の景観、魚市場で水揚げされる港の活気、海に親しむ水辺空間等を活かし、他にはない魅力的なみなとの雰囲気をつくり、来訪者の高揚感を掻き立てることで再訪を促す。

#### 歴史資源の保存・活用とリノベーションによる新しい価値の創出

まちに残る貴重な歴史資源を保存し、下田固有の景観を維持するとともに、歴史的背景や培われてきた文化などに配慮した空き家のリノベーション等により、新たな価値を創出し、まちの魅力の向上を図る。

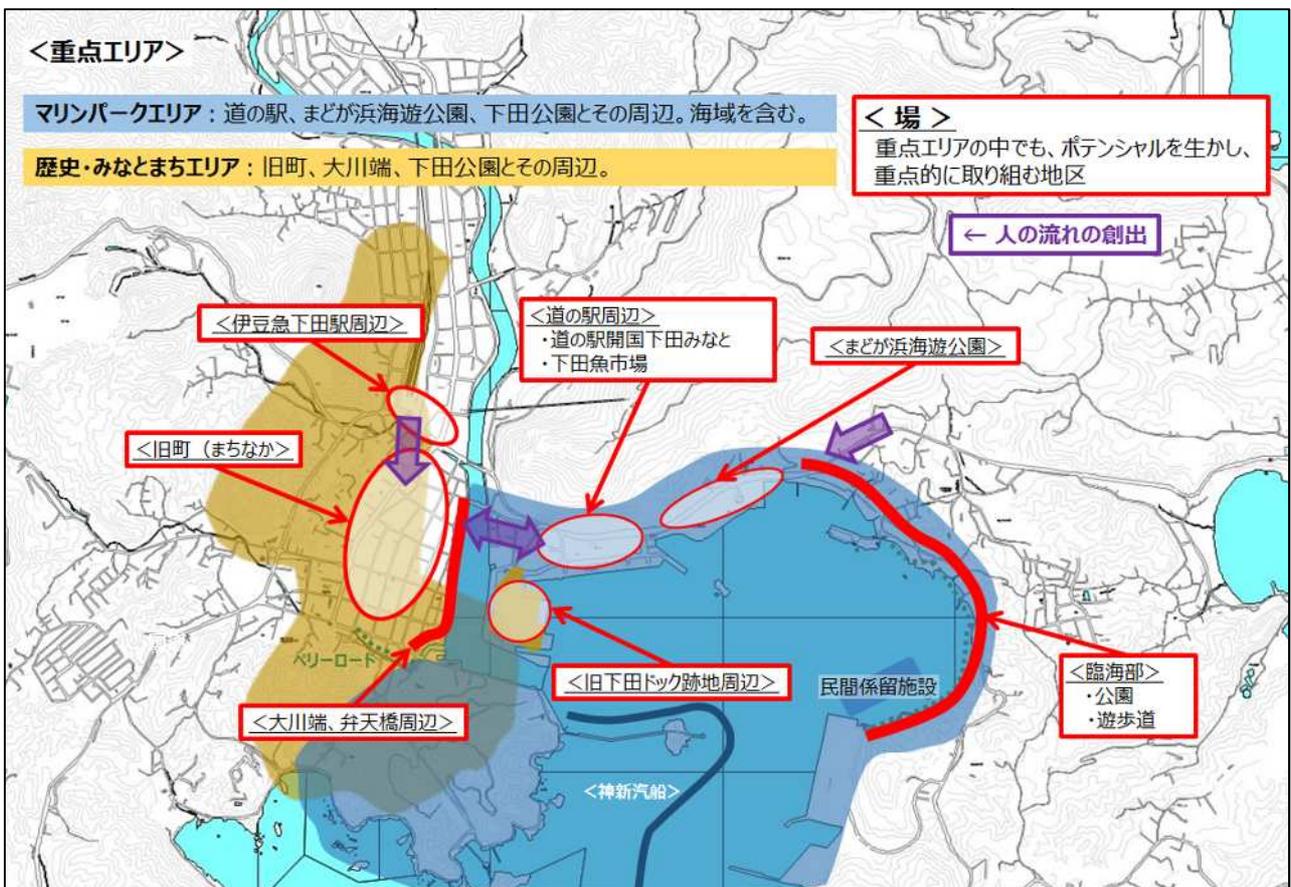
#### 協働で進めるまちづくり

受け継がれてきた伝統行事、緑化や清掃といったコミュニティ活動の維持に加え、みなとまちゾーンの目指す姿（将来像）を共有して、多様な主体が意見を出し合い、協力し合ってまちづくりに取り組む仕組みを構築する。

## 第4章 みなとまちゾーンの「場の力」

これまで示した魅力、現状と課題、取組の視点を踏まえ、みなとまちゾーンの目指す姿(将来像)の実現に向けた各エリアの事業方針(エリアの目的)を定めるとともに、エリアの魅力を高めるために重点的に取り組む地区を「場」として設定し、それぞれの「場」に求められる役割(位置付け)を示す。

### 【みなとまちゾーンの「場」の配置】



## 4-1 マリンパークエリア

### 事業方針（エリアの目的）

- ・ 海に面した立地を活かし、みなとまちに来た高揚感を創出
- ・ 陸と海のネットワークを活かしたまちの玄関口
- ・ 旧町と市内各所への人の流れの誘導
- ・ 下田港周辺の公園等の活用による、人々が集う憩いの場の形成
- ・ まどが浜海遊公園の有効活用、道の駅の魅力化、魚市場の活性化
- ・ 市民や市内事業者等の多様な主体の参画と民間企業との連携

### マリンパークエリアの「場」と求められる役割（位置付け）

#### 【道の駅周辺】

旅の目的地（ランドマーク）としての集客力と、旧町や市内各所への誘導を促す情報発信機能を有し、来訪者のみならず、市民も利用するにぎわいの拠点。

#### 【まどが浜海遊公園】

公園の開放的な空間や人工磯など海に親しむ「場」を有し、水辺の景観を楽しみながらくつろげる市民や来訪者が広く利用する憩いと交流の場。

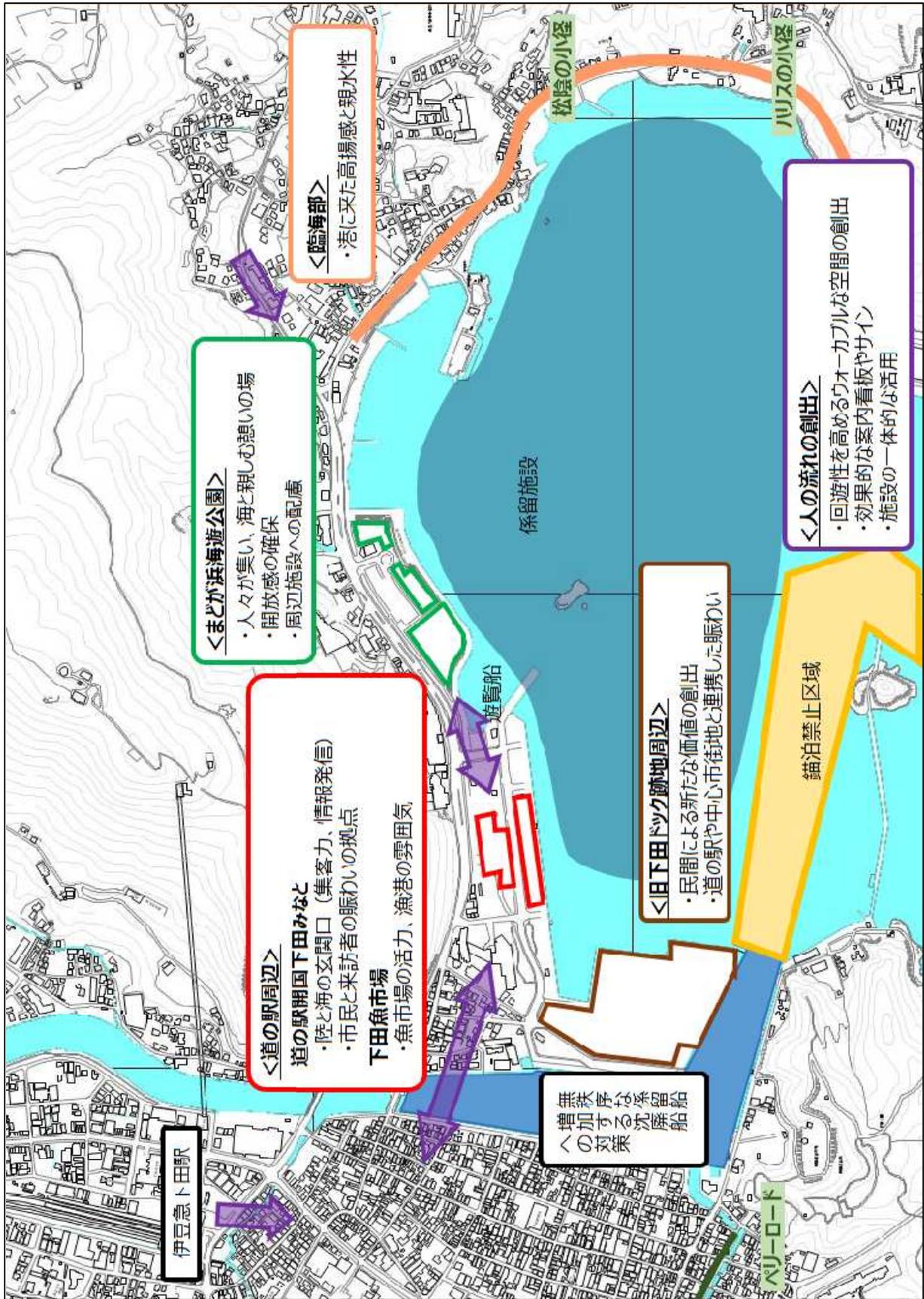
#### 【臨海部】

下田港、旧町、周囲を囲む山並みといった自然とまちが調和した景観を望み、みなとまちの高揚感と親水性を感じられる散策や休憩施設等の機能を併せ持つビュースポット。

#### 【旧下田ドック跡地周辺】

みなとまちゾーンの目指す姿（将来像）を共有し、民間企業の有する活力や視点を活かした連携により、新たなまちの魅力を創出する場。

【マリンパークエリアの「場」の役割（位置付け）】



## 4 - 2 歴史・みなとまちエリア

### 事業方針（エリアの目的）

- ・ 歴史的建造物や江戸時代の町割りを残す街路網などの歴史的景観の活用
- ・ みなとまちの雰囲気を感じさせる大川端通りの活用
- ・ 空き家、空き店舗等の活用（リノベーション）による新スポットの創出
- ・ 歩きたくなるまちなみの形成
- ・ まちの活性化や伝統行事の保全のための多様な主体の参画の促進

### 歴史・みなとまちエリアの「場」と求められる役割（位置付け）

#### 【旧町（まちなか）】

歴史情緒を感じさせる景観と屋外空間の活用、空き家等のリノベーションによる新たな価値を創出し、食と文化を包摂したウォークブル（歩いて楽しい）な空間を有するまちの中心地。

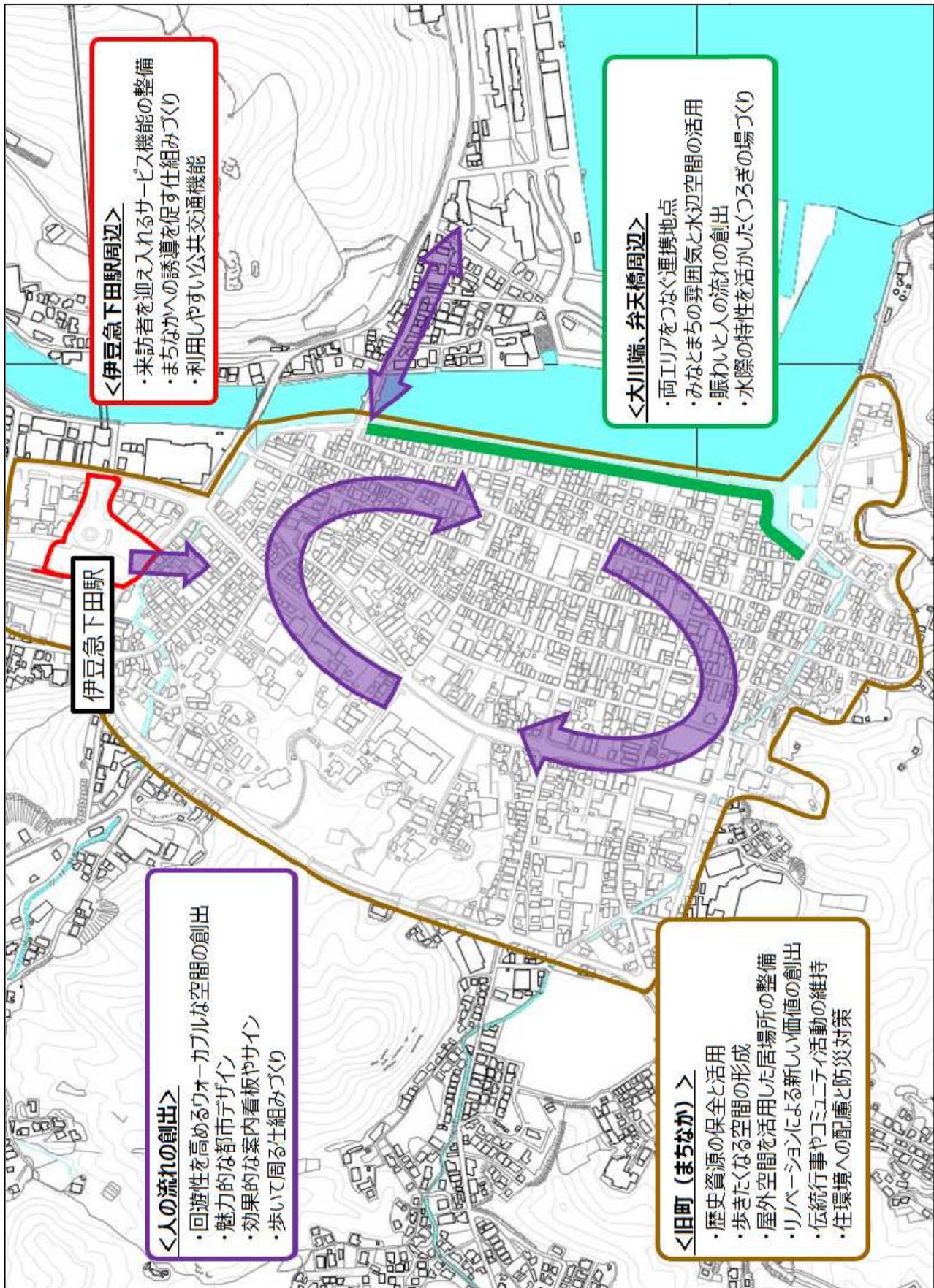
#### 【大川端、弁天橋周辺】

みなとまちの雰囲気と水辺に面した立地を活かした情緒ある安らぎの空間と、マリパークエリアからの動線としての機能を有するエリアをつなぐ連携地点。

#### 【伊豆急下田駅周辺】

公共交通と幹線道路の結節点として、来訪者を迎え入れる機能を集約したまちの玄関口。

【歴史・みなとまちエリアの「場」の役割（位置付け）】



## **第5章 事業計画**

前章で定めた事業方針に基づき、今後重点的に取り組んでいく事業を定めるとともに、それぞれの「場」の魅力を高めていくための配置・整備の考え方、留意すべき事項を整理し、「場」のイメージ案を示す。

### **5 - 1 重点的な取組**

#### **道の駅の再編整備**

老朽化している4階ミュージアム等の施設再編に向けて、施設の利活用案及び利用条件の見直しの検討を進め、多様な利用形態が可能な施設として、集客力や情報発信の強化、利用者の利便性を向上し、まちの玄関口としての魅力化を図る。

#### **まどが浜海遊公園の活用推進**

人々が集う、憩いと交流の場のさらなる形成の一環として、公園内での飲食の提供、休憩機能の整備、イベント開催等の実証実験を行うとともに、人工磯の活用、夜間の利活用、下田港内への係留施設の整備検討等と併せて、公園に新たに求められる機能や施設、管理運営体制の検討を進め、利活用増加と滞留性の向上を図る。

#### **ウォーカブルな環境整備の推進**

人や車の移動、既存建築物等の現状調査を踏まえた実証実験と検証を行い、ウォーカブルな環境整備に向けた課題の抽出と整備方針を定める。

また、旧町（まちなか）への誘導動線として大川端周辺の道路環境整備について、屋外空間整備や店舗と連動した回遊性の向上策の検討、交通体系の見直し等を検討し、歩車共存のウォーカブルな環境整備を推進する。

#### **伊豆急下田駅周辺地区の整備検討**

現在策定中の「下田市立地適正化計画」との整合を図りつつ、「伊豆急下田駅周辺地区まちづくり基本構想」の検討を進め、南伊豆地域の玄関口としての魅力の創出、交通結節機能の向上等に向けた整備計画の検討を進める。

### **係留施設の整備**

無秩序に係留された船舶や増加する沈廃船による景観の悪化と災害発生に伴う市街地への被害の軽減、水域からの来訪促進等を図るため、漁業関係者等への影響や、来訪者のまちなかへの誘導等を考慮して、係留施設の整備に向けた検討を進める。

## 5 - 2 「場」の取組と将来イメージ案

### マリンパークエリア

#### (1) 道の駅周辺

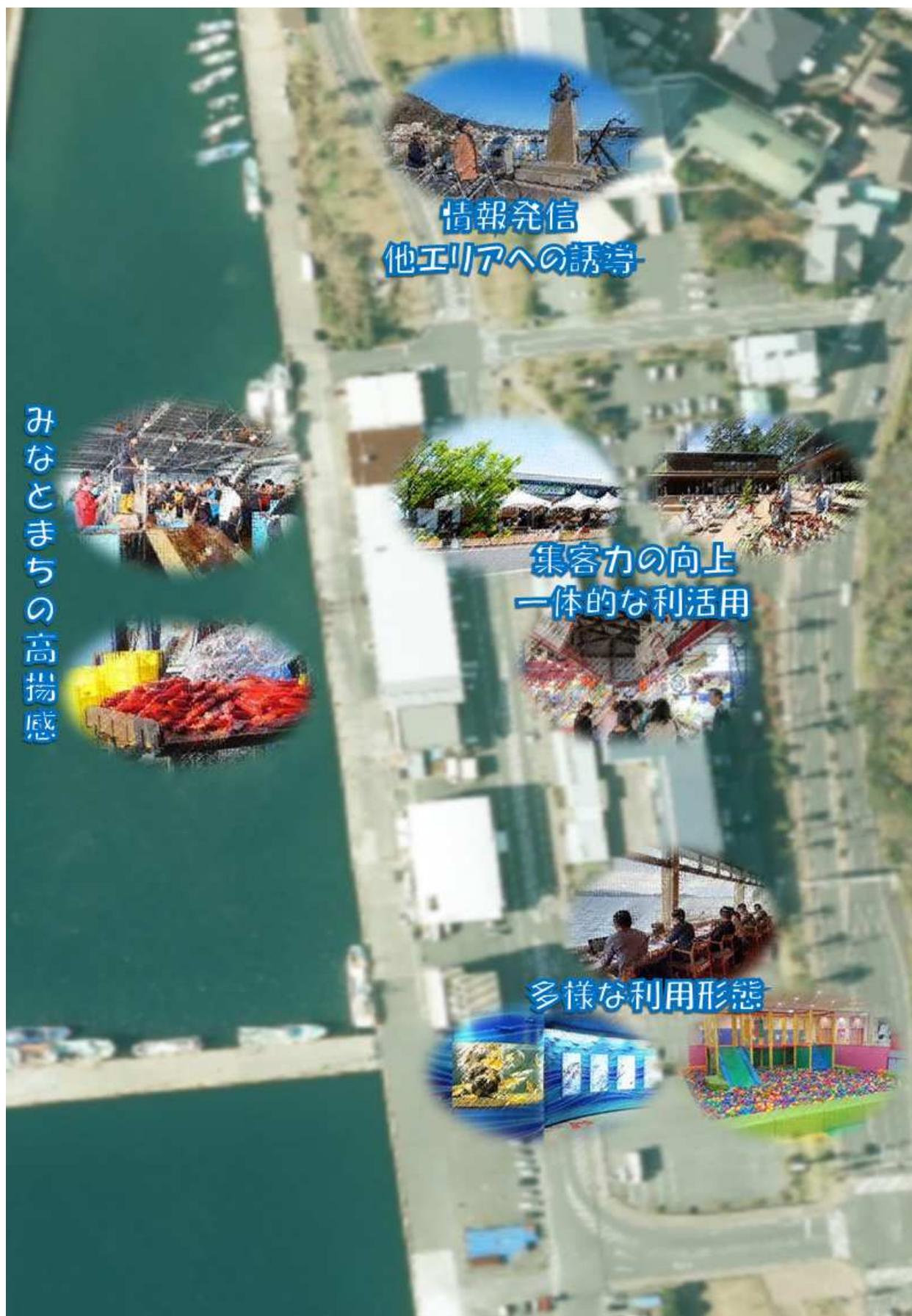
##### 【配置・整備の考え方】

- ・ 市外からの来訪者に加え、市民利用の増加を図るため、地元も意識した飲食・物産の商品展開や定期的なイベント開催等を実施する。
- ・ 道の駅について、観光、宿泊、飲食等の地域情報の集約及び情報発信機能の強化やにぎわいの拠点として集客性の向上を図るため、有料貸付等も含めた多様な利用形態を検討するとともに、老朽化した施設の再編整備を推進する。
- ・ 漁協施設は、来訪者がみなとまちに来た高揚感を感じる「見せる施設」としての機能も視野に入れ、市場施設の衛生環境機能と耐震性の確保に向け整備を行う。
- ・ 海産物の購買意欲の向上を図るため、マリンエコラベルの普及と周知による下田産海産物のブランド化を推進する。
- ・ 道の駅駐車場の繁忙期の駐車場不足や、季節的な利用動向に対応するため、周辺施設や市内の駐車場の相互利用等について検討を進める。
- ・ 道の駅利用者の災害時の安全対策を図るため、静岡県第4次地震被害想定や繁忙期の利用者数等を基に、避難対策や施設の早期復旧案の検討を進める。

##### 【留意すべき事項】

- ・ 市民の利用やインバウンド対応にも配慮した環境整備
- ・ 市内事業者との連携
- ・ 道の駅と漁協施設の一体的な利活用
- ・ 繁忙期の利用状況を考慮した受入体制
- ・ 最大規模の被害想定を見据えた災害対策

【道の駅周辺のイメージ案】



みなとまちの高揚感

情報発信  
他エリアへの誘導

集客力の向上  
一体的な利活用

多様な利用形態



## (2) まどが浜海遊公園

### 【配置・整備の考え方】

- ・ 快適な公園運営に向けた環境を整備するため、持続可能な管理・運営体制を構築する。
- ・ 公園の安定した管理体制の構築を図るため、駐車場や人工磯等の民間への有料貸付等による管理費用の確保策について検討を行う。
- ・ 公園の利用者の増加と滞留性の向上を図るため、人々が集い、憩うことができる交流空間の整備と多様な利活用メニューを検討する。
- ・ 海に面した立地を活かした人工磯等の活用による親水性の向上を図るため、既存の施設・設備を利用した体験プログラム等を検討する。
- ・ 公園施設の有効活用とにぎわいの創出を図るため、駐車場の夜間使用制限の現状や課題等について検証を行い、夜間の利活用のあり方について検討を行う。

### 【留意すべき事項】

- ・ 海（みなと）の景観を活かした環境整備
- ・ 適正な管理・運営に向けた問題点の整理と対策を講じる体制整備
- ・ 水域の利用調整

【まどが浜海遊公園のイメージ案】



### (3) 臨海部

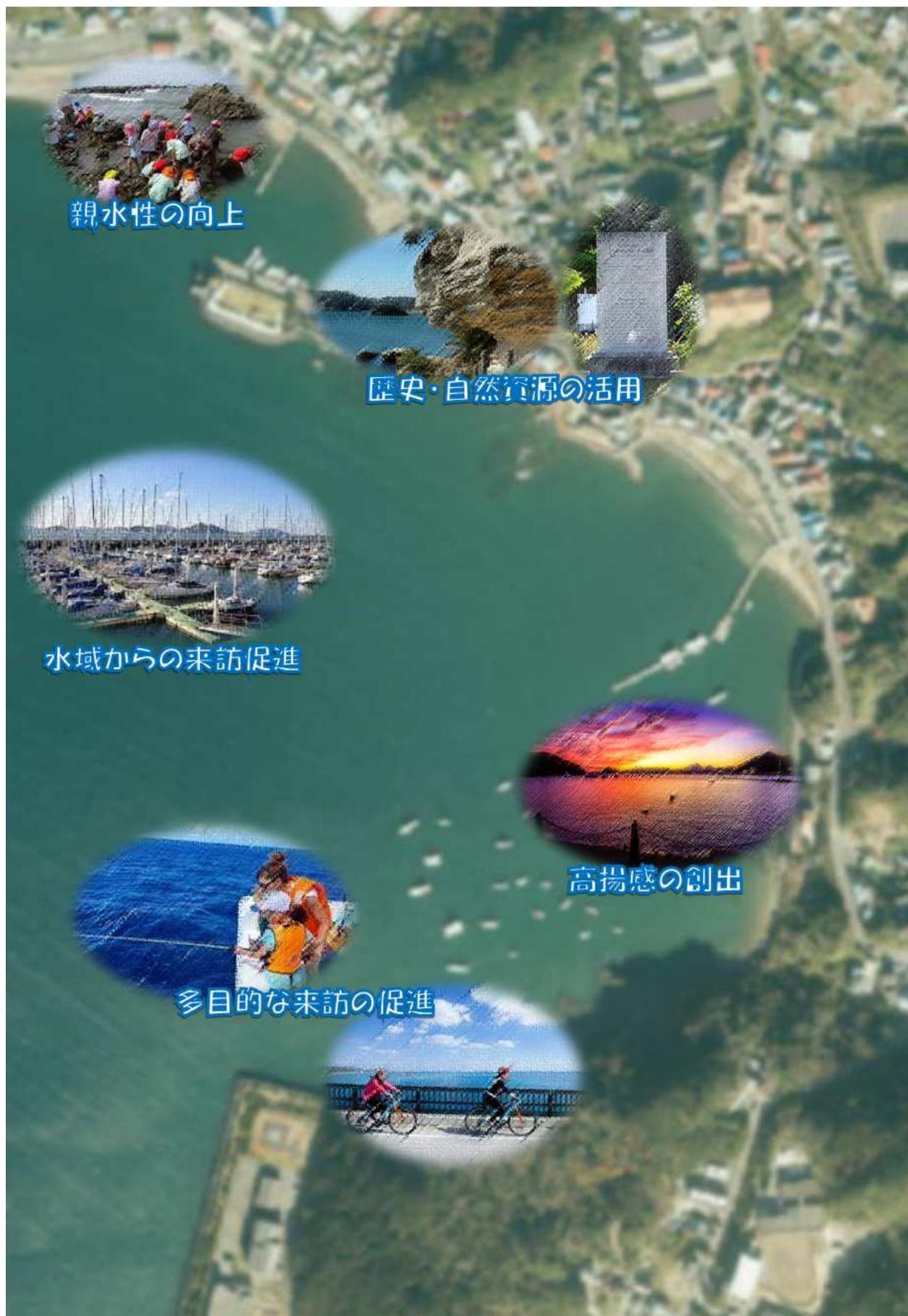
#### 【配置・整備の考え方】

- ・ まどが浜海遊公園の人口磯から柿崎海岸一帯において、気軽に利用できる海の体験メニューを提供するため、水域の利用調整や安全性確保による親水性の向上を検討する。
- ・ 観光以外の来訪者の増加を図るため、立入エリアや漁業者への影響、ごみ対策等の課題に対応しながら、海釣り環境の整備等を検討する。
- ・ 道の駅やまどが浜海遊公園周辺との回遊性を高めるとともに、旧町内等の他エリアへの誘導を図るため、自然・歴史資源、景観情報等を周知する案内板の設置等を進める。

#### 【留意すべき事項】

- ・ 水辺利用時の安全対策
- ・ 流木等の漂着物の撤去や散策路の美化等による景観の維持
- ・ 水域の利用調整

【臨海部のイメージ案】



#### (4) 旧下田ドック跡地周辺

##### 【配置・整備の考え方】

- ・ 旧下田ドック跡地については、みなとまちゾーンのコネクトや周辺景観と整合した整備を進めるため、事業主体の民間事業者に対して、協調した整備を要請する。
- ・ 観光シーズンの道の駅周辺の渋滞解消や大規模なイベントの開催に対応するため、民間事業者の協力を得て、臨時駐車場やイベント会場として使用する。
- ・ 水辺空間や稲生沢川対岸の景観を活かした視覚的な誘導を促すことで回遊性の向上を図るため、隣接する汐見台公園等を両エリアをつなぐ動線として活用する。

##### 【留意すべき事項】

- ・ みなとまちゾーンの目指す姿（将来像）等の共有
- ・ 周辺の景観に配慮した施設整備

【旧下田ドック跡地周辺のイメージ案】



## 歴史・みなとまちエリア

### (1) 旧町(まちなか)

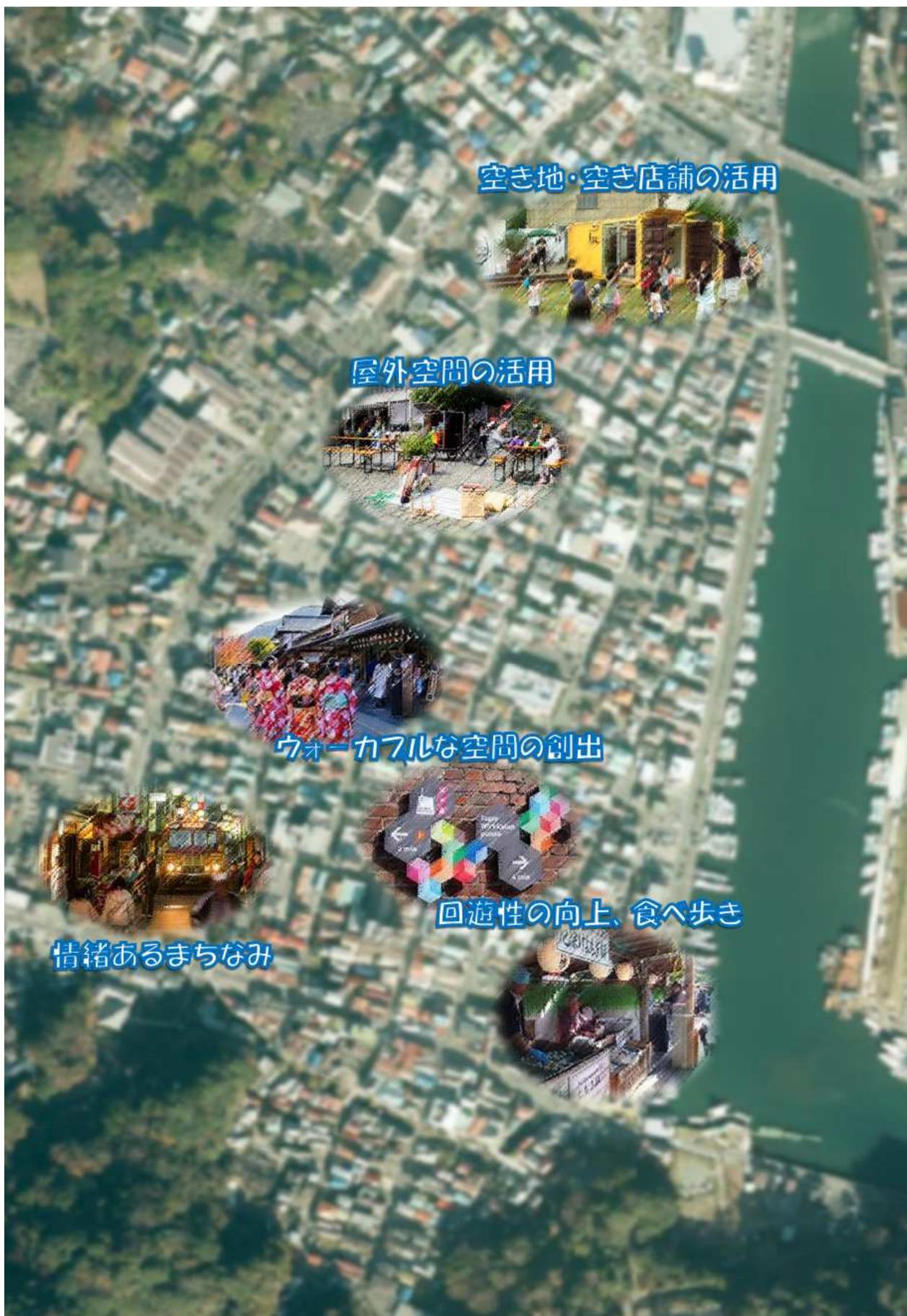
#### 【配置・整備の考え方】

- ・ ウォークブル(歩いて楽しい)な空間の創出に適した周遊ルートを作成するため、人や車の移動、駐車場の利用状況、沿道建物等の調査に基づくルートの検討を行う。
- ・ 多様なニーズを充足させる中心市街地として魅力の増進を図るため、新規事業者の開業支援や空き地・空き店舗の活用を推進する。
- ・ 目的地へのわかりやすい誘導を行うため、T字路のアイストップや交差点の先を覗く歩行者の視線などを意識して、案内看板や誘導サインを設置する。
- ・ 歴史的建造物等の各スポットや屋外空間を活用した視覚的な誘導を図るため、歩行者の視線(アイレベル、グラウンドレベル)を考慮したまちなか空間を整備する。
- ・ 快適なまち歩き環境を提供し、回遊性の向上を図るため、食べ歩き商品の開発、休憩施設やトイレ環境の整備等を行う。

#### 【留意すべき事項】

- ・ 歩行者や自転車に配慮した歩車共存の道路環境の整備
- ・ 歴史的建造物の維持、保全
- ・ 歴史情緒を感じさせる景観の維持、向上
- ・ 住環境への配慮

【旧町（まちなか）のイメージ案】



## (2) 大川端、弁天橋周辺

### 【配置・整備の考え方】

- ・ 水際が持つ癒しの効果を感じ、ゆっくりくつろぐことが可能な空間の整備を図るため、水辺の景観を楽しみながら飲食や休憩ができる環境を整備する。
- ・ マリンパークエリアからの人の流れを作り出すため、大川端、大工町プレイスや弁天橋ボードウォークを活用したイベントを開催する。
- ・ みなとまちに来た高揚感の創出と集客を図るため、漁船の係留や漁業者の作業風景、下田港や寝姿山の景観をビュースポットとして情報発信する。

### 【留意すべき事項】

- ・ 大川端やみなと橋から望む周辺景観の維持・向上
- ・ 景観を構成する漁船の係留や漁業関係者への配慮
- ・ みなとまちの景観に合ったデザイン
- ・ 津波等の災害想定に対する防災対策

【大川端、弁天橋周辺のイメージ案】



### (3) 伊豆急下田駅周辺

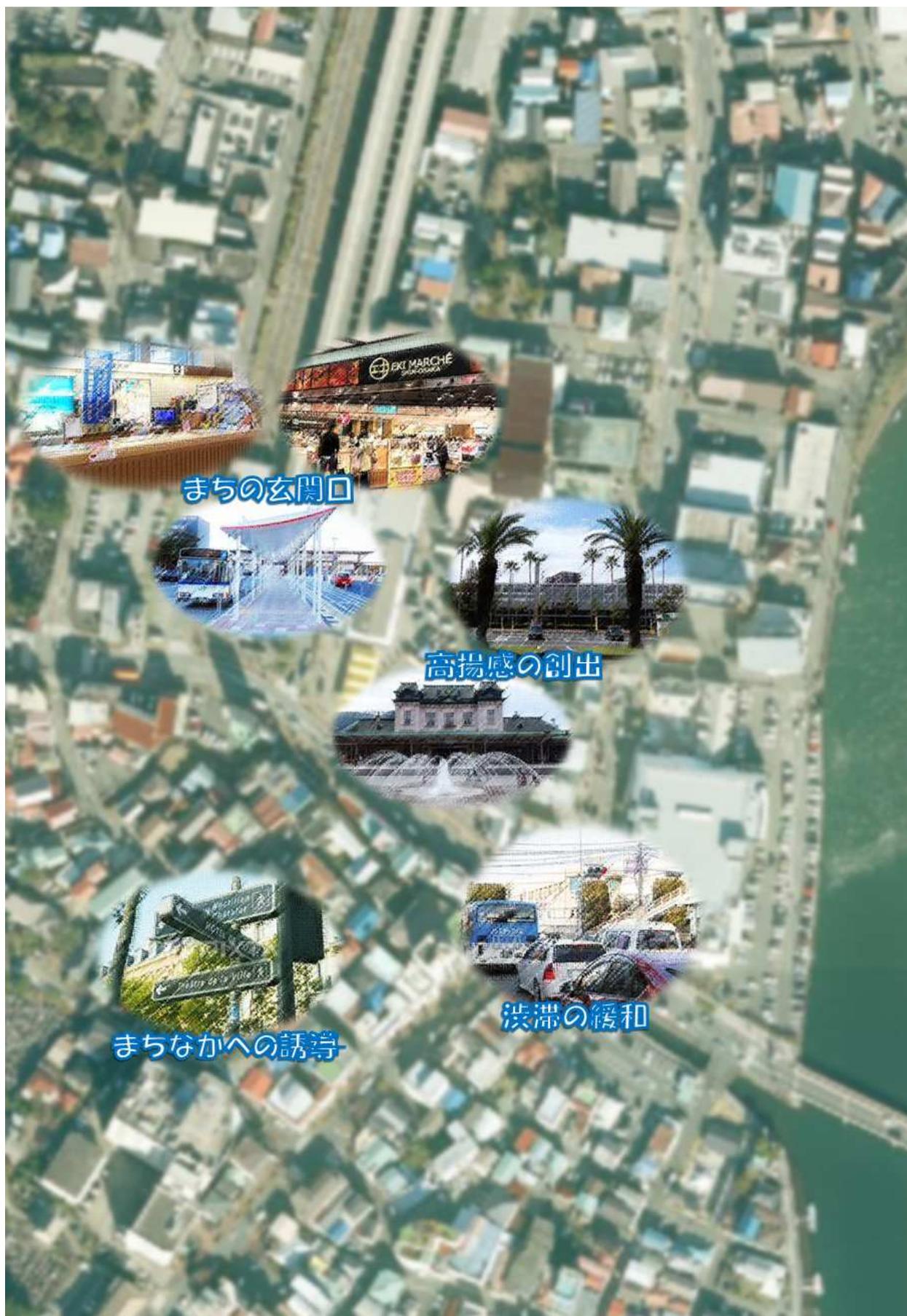
#### 【配置・整備の考え方】

- ・ 降車時や駅を出たときの利用者に向けた旅の高揚感等を創出する景観を整備するため、駅舎の利便性とまちなかへの誘導を意識した施設配置を進める。
- ・ まちの玄関口として、来訪者の受入体制と情報提供機能を強化するため、宿泊・観光施設の案内、イベント情報の提示等を行う総合案内窓口を設置する。
- ・ 終着駅から各地を結ぶ交通の結節点としての機能強化を図るため、バス・タクシーの乗降場所、乗継案内の充実、駐車場・駐輪場等の再配置を検討する。
- ・ 伊豆急下田駅周辺の交通渋滞の緩和を図るため、季節や時間、社会状況等を踏まえ、駅周辺の現状把握と分析の手法や対策を検討する。

#### 【留意すべき事項】

- ・ みなとまち、南国といったまちのイメージに沿った空間づくり
- ・ 利用者の移動を意識した分かりやすい施設配置や情報の提供
- ・ 周辺商業施設等も含めた一体的な開発
- ・ 時期的な来訪者の変動も考慮した渋滞緩和策の検討

【伊豆急下田駅周辺のイメージ案】



## ネットワークの構築

### 【配置・整備の考え方】

- ・ 係留施設は、漁業関係者等への影響や、まちなかへの誘導等を考慮して整備場所の検討を進める。
- ・ 係留施設の整備に伴う利用船舶の維持等に有効な機能・サービスについて展開を促していく。
- ・ 各エリアを結ぶ回遊性の向上を図るため、水辺空間や道路敷き等の活用、イベントの開催等により、移動の負担を感じさせない誘導方策を検討する。
- ・ 両エリアの移動負担軽減のため、レンタサイクル等の活用促進のほか、渡船や水上バス等の新たな動線の整備を検討する。
- ・ 歩行者や自転車での移動に対する安全性を高め、歩車共存の環境を整備を図るため、段差の解消や見通しの確保、車両の通行規制等の検討を行う。
- ・ エリア内の適正な駐車場の整備を図るため、現行の駐車場に係る利用状況や課題、ウォークアブルな空間の創出に向けた人や車の移動状況の調査・分析を行う。
- ・ 来訪者だけでなく、市民の生活路線としても利用しやすい公共交通体系の形成を図るため、乗換案内や決済手段の改善、エリア循環路線の整備等を検討する。

### 【留意すべき事項】

- ・ 係留施設の整備に伴う漁業関係者や景観等への影響と利用船舶の管理
- ・ 土地勘のない来訪者を意識した誘導
- ・ 歩行者や自転車利用者の安全への配慮
- ・ 駐車場の夜間利用や無料開放による全域的な影響

【ネットワークの構築のイメージ案】



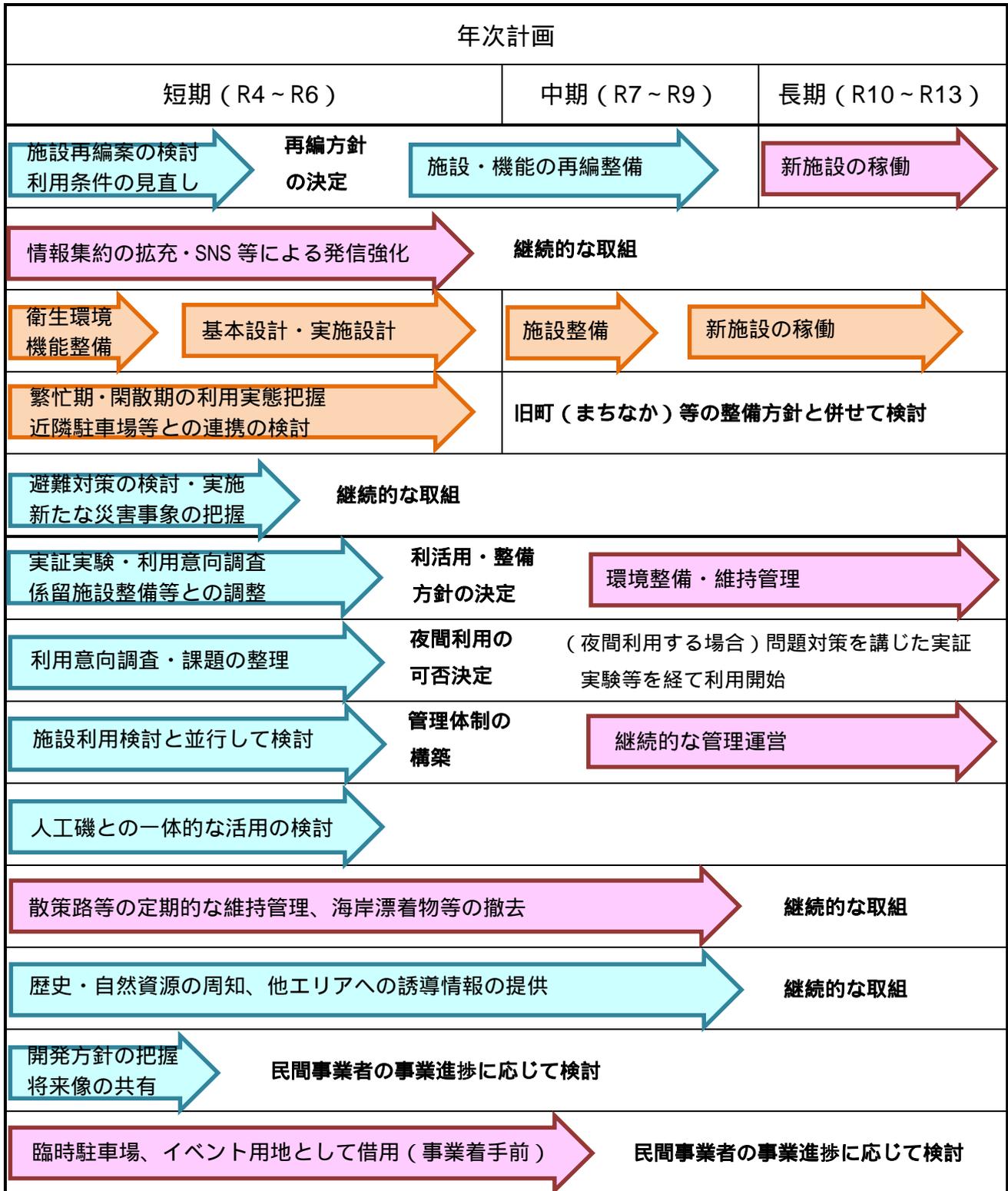
### 5 - 3 ロードマップ（全体計画）

エリア	場	必要な取組	役割分担		
			市	県	民間
マリンパークエリア	道の駅周辺	集客力の向上対策			
		情報発信の強化			
		漁協施設の再整備			
		繁忙期の受入体制の構築			
		津波等防災対策の強化			
	まどが浜海遊公園	公園利用者の拡大と滞留性の向上			
		夜間有効利用に向けた再検討			
		持続可能な管理・運営体制の構築			
	臨海部 旧下田ドック跡地周辺	エリア全体の親水性の向上			
		海浜環境の維持・管理・整備			
		案内・誘導情報の発信			
		民間事業者との事業連携			
		民有地の有効活用			

：事業主体として取組を実施、

：事業主体への協力・援助、

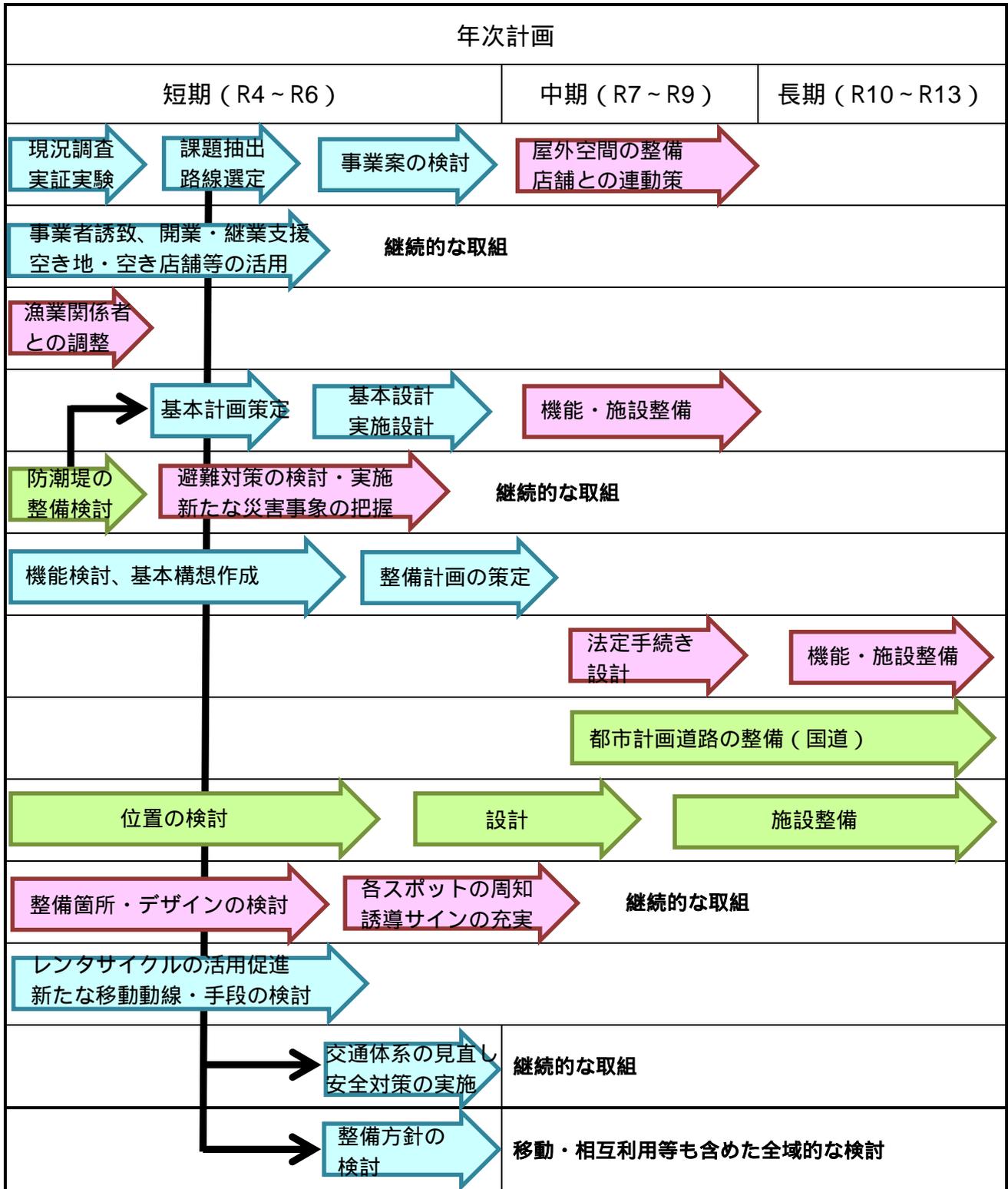
：取組への助言・指導



市主体、
  県主体、
  民間主体、
  複数主体

エリア	場	必要な取組	役割分担		
			市	県	民間
歴史・みなとまちエリア	旧町（まちなか）	ウォークブル空間の創出			
		商業機能の整備			
	大川端・弁天橋周辺	漁業関係者との調整			
		物揚場の整備・活用方策の検討			
		津波等防災対策の強化			
	伊豆急下田駅周辺	伊豆急下田駅一帯の再整備方針の検討			
		環境整備（駅舎、情報案内、交通）			
		伊豆急下田駅周辺の渋滞対策の検討			
	ネットワークの構築	下田港内	係留施設の整備		
全域		各スポットの魅力創出と回遊性向上			
		円滑な移動を図る移動手段の整備			
		歩車共存の環境整備			
		駐車場の整備			

：事業主体として取組を実施、      ：事業主体への協力・援助、      ：取組への助言・指導



市主体、
  県主体、
  民間主体、
  複数主体

## おわりに ～次のステップに向けて～

本市の総合計画において中心的拠点として位置付けられている「みなとまちゾーン」について、道の駅及びまどが浜海遊公園の有効活用と旧町への人の流れの創出を主題として平成 29 年度より協議を重ね、みなとまちゾーンの活性化に向けた方針を示す基本計画として、本計画を策定した。

また、市制施行 50 周年を契機として、この取組を大きく広げていくため、計画策定と並行して、みなとオアシスの登録に向けて準備を進め、道の駅をはじめとする下田港周辺部の施設を構成施設として、国土交通省より「みなとオアシス下田」として登録を受けた。

今後は、みなとまちゾーン一帯を「みなとオアシス下田」の想定エリアとして捉え、本計画をベースとして、みなとオアシスの制度目的である「地域住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりの促進」に取り組んでいく。

そのため、本計画の事業の推進により、活性化に向けた動きを具体化していくとともに、事業に関わる市民や関係団体、市内事業者等の参画を促し、「みなとまちゾーン活性化協議会」を母体とした官民が連携するプラットフォームをつくり、様々な取組の実施と多様な視点からの協議を重ね、さらなる魅力の増進を図っていく。